

「スマートシティ都留」を目指して！

「市民が変えよう！市の仕事」

市民参画による「事業仕分け」について

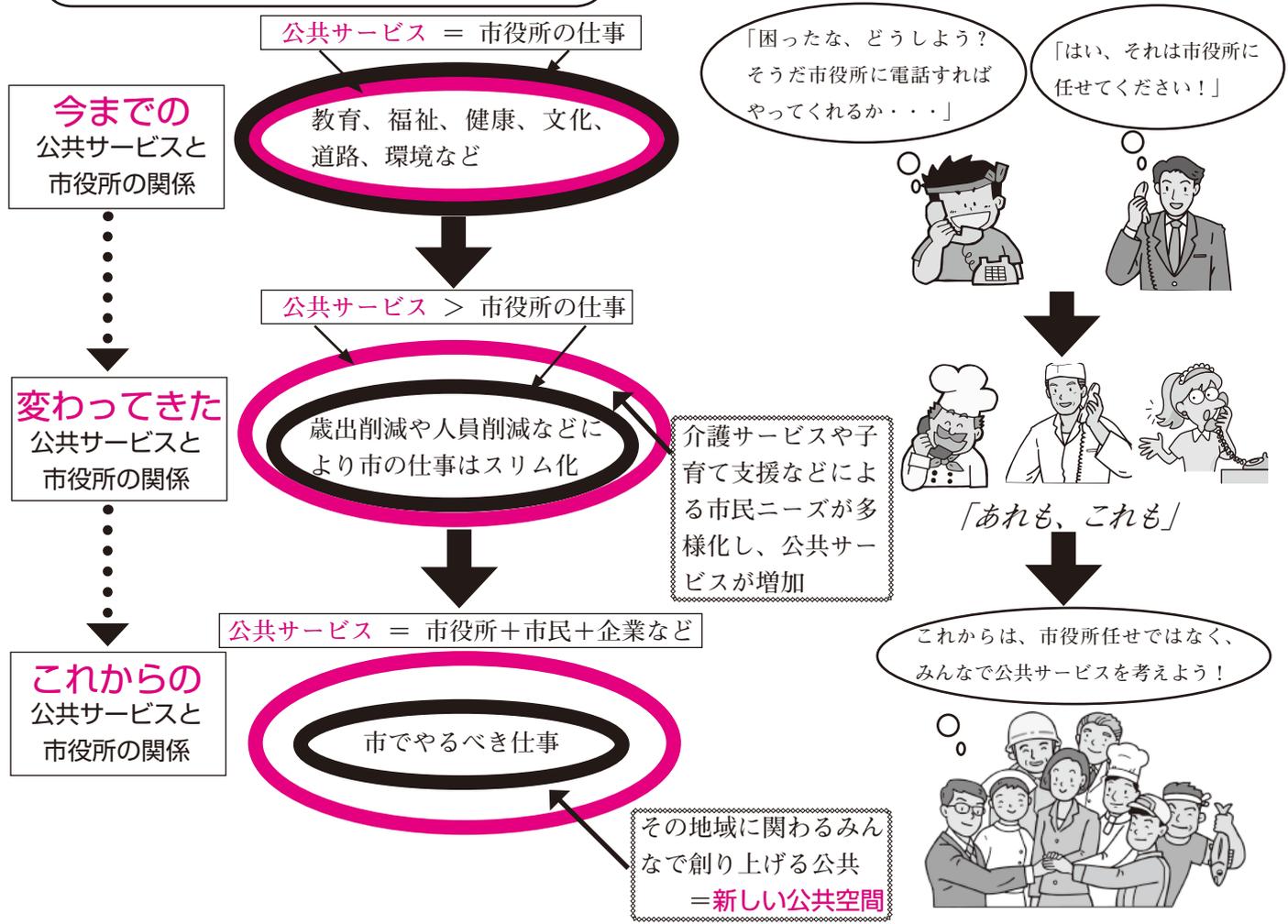
昨年11月に市民と行政が担う公共サービス「新しい公共空間形成」(※1)に向けた「市民参画による「事業仕分け」」(※2)が試行実施されました。昨年度は、市民などからの応募に基づき選定した10事業の仕分けを行い、不要1事業、新しい公共空間へ(民間などへ)2事業、市の仕事【見直し】7事業となりました。昨年12月に「仕分け結果を踏まえた市の方向性」を市民へ公表し、現在、次ページのとおり一部実施をしています。

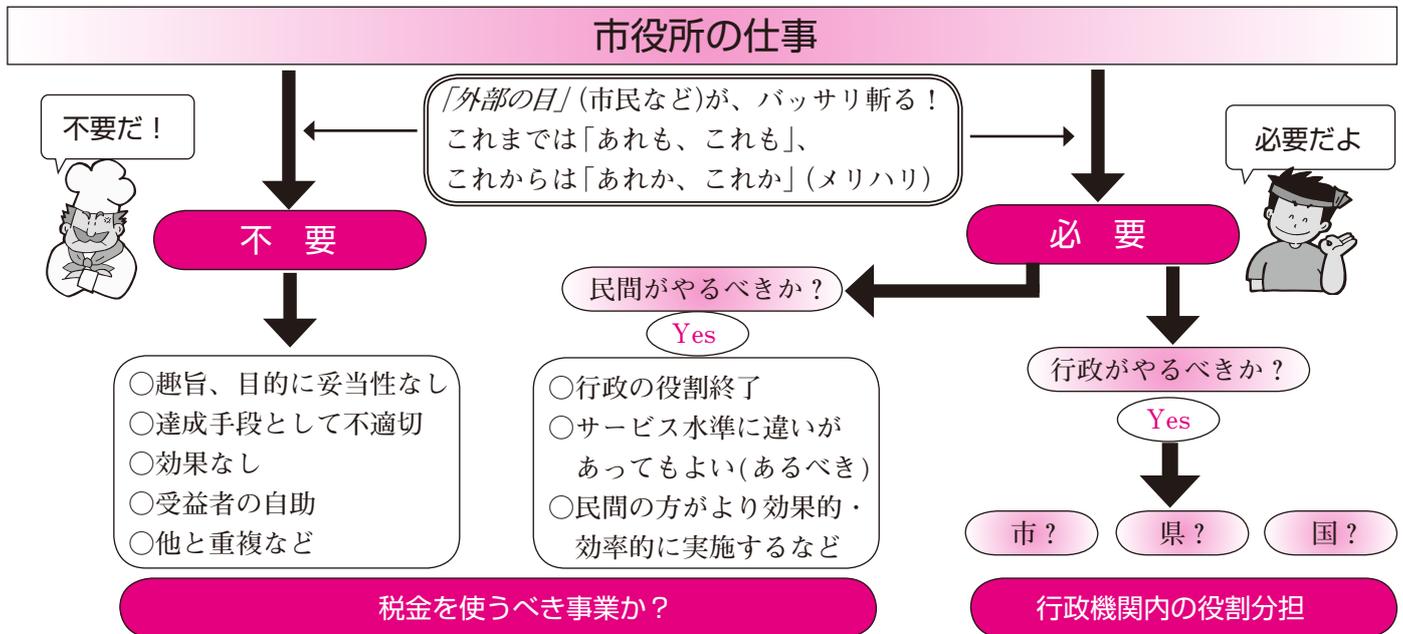
これまでの行財政改革の取り組みにより、行政のスリム化は進んでいます。公共サービスのあり方、特に、その担い手(行政がやるのか、市民団体・委託業者などがやるのか)の議論を深める必要があります。そこで、市民と行政が一体となり「新しい公共空間」の形成に向けた、地域協働、アウトソーシングなどの選別を行う「市民参画による「事業仕分け」」を本年10月に約20事業を対象に実施する予定であります。また、5月に発刊した白書と同様に、行財政経営の「見える化」(透明化)の一つの手法として、市民への公開原則のもと、外部評価者の参画により実施することとしています。なお、実施日など詳細については、次号以降の広報でお知らせします。



※1「新しい公共空間形成」とは、今まで公共サービスについては、行政が担ってきました。しかし、これからは「小さな自治体、そして大きな公共」“スマートシティ都留”を目指すため、官から民へとシフトチェンジしていかなければなりません。今までの公共サービスの形態が変わり、行政が担う空間、市民などが担う空間が形成されることを言います。(以下概念図参照)

※2「事業仕分け」とは、行政サービスの“そもそも”の必要性や実施主体について、市役所の仕事を、まず「不要」か「必要」なのか「必要」なら民間、市町村、県、国に分けていく作業であり、地方分権改革、市場化テスト(本市では協働化テスト)などを実効あるものとするための前提作業です。「誰が行うべきか」の前に「そもそも必要なサービスか」の議論が不可欠で「国から地方へ、官から民へ」の前に、要否について議論を行い「外部の目」(市民など)により「公開の場」で議論することがこれまでにない特色です。(次ページ概念図参照)





平成19年11月実施「事業仕分け」結果を踏まえた市の方向性」進捗状況 —5月末現在削減額合計 11,159千円—

経費削減とともに、評価者及び一般市民評価者からいただいたご意見が、既存の事業の見直しや考えるきっかけとなっており、事務改善につながっています。

——各地域コミュニティセンター運営事業—— (共同浴場管理運営含む)

仕分け結果 市の仕事【見直し】

市の方向性

- 今後も効率的並びに公正な運営に努め、一層の経費削減のため、コミュニティセンターの職員に民間人などの登用を行います。
- 共同浴場については、利用状況を把握する中「芭蕉月待ちの湯」への振り替えなど、見直しを進めます。

効果 **削減額10,943千円**

- 人件費削減及び市民サービス向上のため、人事異動に伴い、東桂コミュニティセンター所長を主幹クラス職員から退職者非常勤職員へ移行しました。また、盛里コミュニティセンター職員1人を退職者非常勤職員へ移行しました。(幅広い行政知識をもった非常勤職員へ切り替え＝市民サービス向上)

——市民活動支援センター運営事業——

仕分け結果 新しい公共空間へ(民間などへ)

市の方向性

- センターの管理運営をNPOなどに委託できるよう、受け皿の発掘並びに育成に努めます。
- 地域協働のまちづくりの担い手の育成に向け、団塊の世代などの実態把握に努め、有効かつ適切な取り組みを進めます。

効果

- 市民活動支援センター賃金職員を知識豊富な賃金職員へ入れ替えを行いました。

- 1月に約1,600人の団塊の世代の市民にアンケート調査を実施し、そのニーズに基づき、3月に「セカンドライフ“夢追い”フェスタ」を開催しました。本年度は重点施策として「セカンドライフ“夢追い”塾」を開講しました。
- 「ハートフルネット都留」ホームページの内容を見直し、市民が使いやすいシステムへと変更を図っています。

——のびのび興譲館事業——

仕分け結果 市の仕事【見直し】

市の方向性

- 今後もジュニアリーダーの育成に努めることとし、市民ニーズを把握するため、アンケート調査を実施し、開講する塾の選択と統合や、放課後子ども教室推進事業との連携などの見直しを進めます。

効果 **削減額66千円**

- 3月に塾生に対し、アンケート調査を実施し、そのニーズを本年度塾に活かしています。また、2年間で塾生が少なかった塾を休止しました。(9塾→7塾)

——まちかどのポケットパーク整備事業——

仕分け結果 市の仕事【見直し】

市の方向性

- 市民が主体的に、整備並びに管理に関われるように支援の内容と方法について見直しを進めます。

効果 **削減額150千円**

- まちかどのポケットパーク花壇づくり助成事業について、まちづくり推進事業に集約化を図りました。(市民団体に限定していたものを幅広い市民へ対象を移行)

※平成20年5月末現在進捗している事業のみ掲載しています。